

平成29年度愛知県献血推進協議会議事録

(1) 日時・場所

平成30年2月2日（金）午後2時から午後3時30分まで

愛知県議会議事堂1階 ラウンジ

(2) 出席委員（15名）（順不同、敬称略）（注）◎：議長

山本 浩史、片桐 照二、榊原 博行、細谷 澄子、榊澤 征子、竹下 裕隆、粥川 桂司、
松本 悠里、夏目 茂美、菅沼 秀浩、池田 千晶、池田 功人、木村 隆、大西 一功、
◎松本 一年

(3) 代理出席者（7名）（順不同、敬称略）（注）カッコ内は委員氏名

石黒 基仁（酒向 勇平）、風村 真伸（吉田 雄彦）、伊與田 賢（後藤 由紀夫）、
伊藤 修司（松井 圭介）、新家 孝義（加藤 法保）、加藤 勝子（竹内 清美）、
佐久間 啓彰（服部 亮市）、

(4) 欠席委員（4名）（順不同、敬称略）

熊谷 啓之、吉田 貴、直江 知樹、松下 正

○ 開会

医薬安全課・小栗主幹

それでは、定刻となりましたので、ただ今から、平成29年度愛知県献血推進協議会を始めさせていただきます。議長選出までの間、司会をつとめさせていただきます愛知県医薬安全課の主幹の小栗と申します。どうぞよろしくお願ひします。それでは、開催にあたりまして、愛知県健康福祉部保健医療局の松本局長から御挨拶申し上げます。

1 挨拶

愛知県健康福祉部保健医療局・松本局長

失礼いたします。愛知県健康福祉部保健医療局長の松本でございますが、一言御挨拶申し上げます。本日は皆様には年度末で大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本協議会は、愛知県における献血の普及啓発、そして、血液を安定的に確保・供給するための体制づくりについて協議するために年1回、開催しているものでございます。

今年度の本県における血液の状況につきましては、関係者の皆様のおかげをもちまして、詳しくは後ほど報告がありますが、計画どおりに進んでいるところでございます。

これも、県民の皆様の温かい御理解と関係者の皆様の熱心な推進活動の賜物であると思っております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

しかしながら、少子高齢化によって献血できる方の人数は年々、減少しつつあります。加えて、近年は若い方の献血率が減少傾向にあるため、血液事業を安定的に維持できるよう広く理解を求めていく必要があると感じております。

このため、愛知県におきましては、市町村、日本赤十字社愛知県支部及び愛知県赤十字血液センターと連携しながら、献血運動の一層の推進を図るため「愛の血液助け合い運動」を展開するとともに「はたちの献血キャンペーン」など若年層に対する献血の普及啓発事業など、様々なキャンペーンを実施しているところでございます。

今後とも県民の皆様の献血に対する理解が更に深まりますよう、皆様の御理解と御支援をいただきながら各種取組を進めてまいりたいと考えております。

また、本日は、来年度の愛知県献血推進計画を策定するに当たりまして、委員の皆様から御意見・御提言をいただき、今後の施策に反映してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、私いつも言っておりますが、本日、御出席の皆様の共通の願いというのは、県民のみなさん、みんなの健康、安全、安心だと思えます。そうした共通の願いに向かって共に考え、共に行動していきたいと考えておりますので、今後とも御支援いただきますようよろしくお願いいたしまして開会に当たっての私の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

資料確認・議長選出

医薬安全課・小栗主幹

会議の内容につきましては、愛知県献血推進協議会設置要綱の第6第2項により、原則として公開することになっております。後日、本日の会議録を御出席の委員の皆様にご確認いただいた後、当課のホームページに載せさせていただきたいと思っておりますので、御承知ください。

続きまして、本来ならここで、御出席いただきました委員の方々をお一人ずつ御紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りしております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

なお、配席図左側の豊橋市の夏目様につきましては、公共交通機関の遅れにより、少し到着が遅れるとの御連絡をいただいております。

なお、次にお名前を申し上げます委員につきましては、事前に欠席の御連絡をいただいております。愛知県青年団協議会の熊谷様、公益社団法人愛知県医師会の吉田様、一般社団法人愛知県病院協会の直江様、名古屋大学医学部附属病院の松下様、以上の4名でございます。

(資料の確認)

不足等ありましたら、お申し出いただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、議事に移らせていただきます。会議の議長は、協議会設置要綱第5により、委員の中から互選により選出された会長が務めることとなっております。事務局案としましては、例年どおり県の保健医療局長を会長とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

異議なし（拍手）

ありがとうございます。それでは、松本局長、議長席をお願いいたします。

2 報告事項

(1) 血液事業の現状について

議長・松本局長

それでは、私の方で議事の取り回しをさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、是非皆様の御意見をより多くいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。では、早速議事に入りたいと思います。それでは、報告事項から入らせていただきます。なお、御意見等につきましては、すべての報告事項が終わった後に、一括してお伺ひしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、始めに、報告事項(1)血液事業の現状について、事務局から報告をお願いします。

医薬安全課・伊藤課長補佐

医薬安全課の伊藤と申します。それでは、座って説明させていただきます。血液事業の現状につきまして、報告いたします。お手元の冊子「愛知県献血推進協議会 資料」の1ページを御覧ください。

はじめに、愛知県における年度別献血目標及び達成状況について、御報告します。年度別の献血目標につきましては、県内で必要となる血液製剤の需要見込みを基に、血液センターと協議した上で設定しております。表の下段、平成29年度の献血目標は、献血者数で271,511人となっており、これに対して目標達成状況ですが、12月末時点での献血者数は205,509人で達成率は献血者数ベースで75.7%となっており、順調といえます。

資料の2ページを御覧ください。ここからは、年次別の状況について報告いたします。2ページ以降の各数値につきましては、1月から12月までの年計となっておりますので御注意願ひします。

まず、ページ上段を御覧ください。愛知県における平成29年の献血者数は、273,145人で、前年より119人減少しております。ページ下段には、全国における状況を示しております。なお、全国の平成29年の数値は速報値であり、未集計部分は空欄とさせていただきます。

資料の4ページを御覧ください。年齢別の献血者数の推移です。近年、ページ上段の愛知県の状況、ページ下段の全国の状況、双方におきまして、献血者数は40代が最も多くなっております。また、愛知県における50代、60代の献血者及び献血率は、前年と比較して増加しているのに対して、20代から40代は減少しています。一方、10代の献血者数は前年より増加、献血率も微増ではありますが、増加しております。

ここで、資料8、40ページを御覧ください。上段がグラフで、下段が表です。平成12年からの愛知県と全国の年代別献血状況をお示ししました。これによりますと、人口100人当たりの献血者数を示す献血率において、10歳代に関しては、この17年間で100人あたり7人程度から、100人あたり3人程度に減少しております。そのほか、42ページには構成比、44ページには献血者数の推移についてお示ししました。若年層へ継続的な訴えが必要な状況と言えます。

資料の5ページ中段を御覧ください。愛知県における月別、移動採血におけるグループ別、職業別の献血者の状況です。ページ中段の移動採血におけるグループ別の献血状況ですが、職域における献血者数が全体の6割近くを占めております。また、ページ下段の職業別の状況を見ましても、会社員が約6割を占めており、企業、事業所の方に多大な御協力をいただいております。

6ページを御覧ください。受入施設別の献血者数の推移です。

ページ上段には、愛知県の状況を示しています。本県においては、母体として瀬戸市にあります愛知県赤十字血液センターと豊橋市にあります豊橋事業所の2施設があります。このほか、献血ルームが県内6か所あります。なお、献血ルームは、昨年4月に刈谷、金山の2ルームが閉所し、新たに名古屋駅にゲートタワー26が開所したため、7か所から6か所と1か所減っておりますが、平成29年も献血ルームにおける献血者数が半数以上を占めております。

資料の7ページを御覧ください。愛知県における血液製剤の供給状況の推移を示しております。実本数で、愛知県内の医療機関に成分製剤を252,644本供給しております。前年と比較しますと2,024本増加しておりますが、医療機関からの供給要請に対して、滞りなく供給ができました。

資料の8ページを御覧ください。その他として、献血者の状況をまとめております。4-1の回数別実献血者数ですが、1年間に1回だけの献血者が約7割を占めております。4-2の新規献血者数ですが、献血に初めて協力していただいた方の年齢別の状況をまとめたものです。平成29年は前年と比べますと、10代が増加しましたが、その他の年代は減少しております。この新規の献血者、特に若年層の新規献血者については、毎年増加していくよう引き続き若年層への普及啓発に取り組んでまいりたいと考えております。

このほか、平成29年の市町村別献血状況については、資料9ページに、採血場所別の実績を、資料の10から11ページに、住所地別の実績を掲載しておりますので、参考にしてください。

血液事業の現状につきましては、以上です。

(2) 平成29年度血液事業概要について

議長・松本局長

ただ今の説明で、愛知県の血液事業の現状についての概要はお分かりいただけたかと思えます。続きまして、報告事項(2)の平成29年度血液事業概要について、事務局から報告をお願いします。

医薬安全課・伊藤課長補佐

それでは、平成29年度血液事業概要について報告いたします。資料の12ページを御覧ください。

まず、(1)の「愛の血液助け合い運動の実施」について報告します。毎年7月の1か月間、全国一斉に「愛の血液助け合い運動」が展開されています。愛知県では「愛知県献血運動推進大会の開催」、「地域における啓発活動及び街頭活動の実施」、「献血活動市町村支援」を行いました。

1つ目の白丸、愛知県献血運動推進大会は、昨年7月28日に名古屋市中区役所ホールにおいて開催しました。当日は、377名の方に出席いただき、長年献血に御協力いただきました33名の個人及び48団体に厚生労働大臣表彰、知事感謝状等の贈呈を行いました。2つ目の白丸、地域における啓発活動及び街頭献血を名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市を始め、県保健所が各市町村、関係団体などと協力して、実施しました。この詳細につきましては、資料16、17ページにまとめておりますので、後程御覧ください。12ページにお戻りください。3つ目の白丸、献血活動市町村支援としましては、市町村の健康まつり等のイベントでの街頭活動を支援するため、献血推進キャラクターの「けんけつちゃん」を活用した、本日お手元にお配りしておりますウェットティッシュと絆創膏をそれぞれ18,500個作成して配布しました。

続いて、(2)「複数回献血キャンペーン」について報告します。年2回以上の400mL献血を推進するため、昨年7月から本年3月にかけて「400mL複数回献血キャンペーン」を行っております。キャンペーンを周知するためのポスター、前方の掲示板に貼ってありますが、5,000枚を作成し、県内薬局、健康保険組合、コンビニ、チェーンストア協会などへ配布し、県民への周知に御協力いただきました。複数回の400mL献血に協力していただいた方には、記念品として「ハローキティオリジナルピンズ」を配布しております。続いて(3)の「献血推進ボランティア団体の育成」について報告します。献血グループの組織化を目的として、毎年、各市町村から献血推進リーダーを選出していただいております。この献血推進リーダーの方、それから市町村の担当者の方計70名に対して研修会を開催しました。

続いて、資料の13ページ(4)の「夏休み親子血液教室」について報告します。小学生の親子を対象として、8月18日は愛知県赤十字血液センター豊橋事業所で、22日と23日は瀬戸の愛知県赤十字血液センターにおいて開催し、3日間の合計で377名の親子に御参加いただきました。

また、このほか、若年層への啓発事業としましては、(5)「はたちの献血」キャンペーンの実施、(6)愛知県学生献血連盟の活動援助、(7)若年層啓発資材の作製、配布を行いました。

さらに、今年度の新たな取り組みとして、13ページ1番下の下線部分ですが、高校生が献血ルーム等に足を運び、献血に触れ合う機会を増やすため、愛知県赤十字血液センターが実施する「卒業献血キャンペーン」につきまして、本日お手元にお配りしておりますリーフレットを県内全高校3年生に配布できるよう、協力を行ったほか、同じく、愛知県赤十字血液センターが行う献血セミナー等の献血ルームを紹介する活動等が円滑に行われるよう、関係機関と調整を行いました。

1ページ飛ばしまして、資料の15ページを御覧ください。(12)の「広報関係事業結果」につきましては、表にありますようにテレビ、ラジオ、広報誌等できるだけ多くの媒体を活用いたしまして、献血の広報に努めました。

平成29年度血液事業概要の報告は以上です。なお、別冊の参考資料には、本協議会の設置要綱や、国の「平成30年度の献血の推進に関する計画案」などの資料をまとめておりますので、参考にしていただければ幸いです。

事務局からの報告は以上です。

議長・松本局長

ありがとうございました。ここで、実際に献血事業を行うお立場から、愛知県赤十字血液センターの大西委員にお話を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

愛知県赤十字血液センターの大西でございます。平素より血液事業におきましては、多大なる御理解、御協力をいただきまして誠にありがとうございます。

ただ今事務局から説明がありましたが、若干の補足説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

資料に沿ってお話しさせていただきます。資料1のページ1ですが、平成29年度の事業環境としましては、生産年齢人口の減少が一番大きな課題でありまして、それに対し将来を見据えた若年層の普及啓発活動、これを最大の強化のポイントとしております。

次に2ページ目の献血の年次別の推移でございますが、これは需要に見合った過不足ない採血を行いましたが、献血人数は平成22年をピークに年々、減少してきました。平成29年につきましては微減で、平成28年と比べてほぼ横ばいとなっております。

そして、その内訳は3ページ目でございますが、赤血球の400mL献血は若干減少しましたが、成分献血は増加いたしました。

次に4ページ目、年齢別の状況ですが、16歳から19歳の対人口比の献血率は、平成28年に比べますと、平成29年はわずかに増加しました。上段の表によりますと、献血率として3.3%から3.4%と、例年減少してきたのが踏みとどまって0.1%ではあります増加をしました。これは、一つには若年層対策が功を奏しているのかと思います。

そして5ページ目の右下の表を見て頂きますと、そのうち高校生は平成29年の数値が4,356人とありますが、平成28年と比べますと81人増加しております。高校生の人口は、年々減少していると思いますが、それにもかかわらず献血者数は増加してきたということは、少しは期待が持てる数値ではないかと思えます。同時に大学生におきまして、平成29年は12,407人の献血を頂きまして、これも昨年から比べると285人増え、2.4%の増であります。

それから、この場には、高校の校長先生、あるいは教育関係の皆様、学域の皆様などが御参加ですけれども、こうした学域に移動採血、移動バスを配車させていただきまして、平成29年には公立高校では3校で143人の献血、私立では12校で1,477人に献血をしていただきました。大学におきまして、36校に68回配車しまして、2,813人の方に献血をしていただいております。

次に供給についてですが、7ページの年別の供給状況を見て頂きますと、上に本数、下に単位換算の表があります。これも平成24年をピークに減少傾向にあります。平成29年におきましては、ほぼ横ばいでした。

次に8ページの献血回数は、7割方が年1回で、将来のことを考えますと、2回、3回と複数回になるよう学域での献血の際にも複数回献血クラブの登録を進めております。それから、平成29年の新規献血者につきましても、16歳から19歳までが若干増加しており、これは希望の持てる数値ではないかと思えます。現状については以上です。

次に平成29年度の事業概要について、補足をさせていただきます。これにつきましては、先ほども御紹介がりましたが、献血ルームの再編を平成29年4月に行いました。金山、刈谷ルームは老朽化もありまして閉所し、4月20日にはJRゲートタワーに新たに18床のベッドを持つ献血ルームを拡張開所いたしました。それにより、再開発の進む名古屋駅地区での献血者の増加、あるいは待ち時間の緩和など多くのことを期待して行っております。現在、年間30,000本の採血を目指して順調に経過しております。

それから、13ページの中で若年層ということに関してですが、(4)の小学生の夏休みの親子血液教室、これはあまり多数はできませんが、377名の方に参加いただいております。学域におきましては、献血セミナーを出前授業のような形で行っております。中学・高校・大学に対して4月から12月まで72回行いまして、5,503名の学生に対して講義を行わせていただきました。

広報関係におきましては、今年度もテレビ、ラジオ、そして中日新聞を始めとした新聞等で何回も報道していただきまして、大変ありがたく思っております。以上です。

議長・松本局長

ありがとうございました。

「血液事業の現状」及び「平成29年度血液事業概要」について御報告がありました。私が印象に残っているのは二点ありましたが、まずは6ページのところで受入施設別献血者数を見ますと、愛知県の場合は名古屋駅を中心にきれいな、しかも景色のいい献血ルームがありますので、他県に比べて献血ルームでの献血者が多いという印象がありました。もう一点は、若年層への対策、

献血の推進が必要だと言うことですが、皆様のおかげをもちまして微増ですが、少し右肩上がりだということが報告されました。その2点が大変に印象に残りました。それでは、皆様の中から御質問、御意見等がございましたら御発言をお願いいたします。

日本労働組合総連合会愛知県連合会・石黒局長

お世話になります。今日、連合愛知から代理で参りました石黒と申します。よろしく申し上げます。今の報告の中で、平成29年度において12月末現在では順調に推移されているということですが、刈谷、金山の献血ルームが廃止され、新たにJRゲートタワーなど拡張された部分がありますが、廃止されたところを含めて、そういう新たなところが、その受け皿になっているかどうかを教えてくださいたいと思います。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

昨年の4月以降、献血者の動向を注視しておりますけれども、刈谷の方については、岡崎、名古屋駅に分散して来られており、特に岡崎に行っている方が多く見えます。それから、金山につきましては、市内ということで名古屋駅あるいは栄に行っている方が多いと思われま

す。そして、全体としては刈谷及び金山で減少した分以上の献血者を名古屋駅と栄の3ルームでカバーしております。献血者が減少したということはありません。タワーズ20の献血者数は、少し減りましたが、ゲートタワーの方でそれ以上に来所して頂いておりますので、今まで以上にルームでの献血が行われたと考えております。

議長・松本局長

その他、御質問、御意見よろしいでしょうか。それでは、また、次の議題の中でも結構ですので、また頂けたらと思います。

3 議題

平成30年度愛知県献血推進計画について

議長・松本局長

それでは、次に進みまして、議題の平成30年度愛知県献血推進計画について、事務局から説明をお願いします。

医薬安全課・榊原課長

県の医薬安全課の榊原でございます。それでは、平成30年度愛知県献血推進計画について、説明させていただきます。失礼して着座にて説明させていただきます。まず、資料の20ページをお開きください。平成30年度愛知県献血推進計画案についてでございます。この資料の20ページから36ページにかけて来年度の献血推進計画案を付けております。このうち、資料の27ページから

は平成30年度愛知県献血推進計画案、前年度からの主な変更点及び新旧対照表を付けておりますので、参考にさせていただきたいと存じます。

それでは、平成30年度愛知県献血推進計画案の主な内容を説明させていただきます。資料20ページの最上段でございますが、都道府県の献血推進計画につきましては、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律、いわゆる血液法でございますが、この法律の規定によりまして、国が献血の推進に関する計画を定め、それに基づき、各県が推進計画を定めることとなっております。本日、愛知県の献血推進計画案について御意見をいただいたうえで、例年3月末頃に策定される国の計画と照らし合わせた上で、4月当初になると思っておりますが、県の献血推進計画を策定しまして、ホームページ等で公表する予定としております。

資料の計画の第1でございますが、献血の推進に関する基本的な考え方を、第2では献血受入計画に関わる県、市町村、血液センターなどの関係者の役割を、第3では献血目標量の設定について示してあります。特に、400mL全血献血と成分献血については、近年医療需要が高いため、一層の普及を図ることといたします。

資料の21ページの上段の表「種類別目標数」を御覧ください。平成30年度に確保すべき血液の種類別目標数を示してございます。数値を記載した縦の列が4列ございますけれども、その一番左側、献血目標人数を見ていただきますと、上から200mL献血により6,400人、400mL献血により169,900人、一行飛ばしまして、血漿成分献血により58,540人、血小板成分献血により36,000人、一行飛ばしまして、合計270,840人の献血者の確保を目標としたいと考えております。

昨年度との比較で少し御説明したいと存じます。資料の30ページをお開きください。昨年との対照表となります。左側が30年度計画案、右側が29年度の計画でございます。

これを比較しますと、200mL献血を見ますと昨年度と比べて1,800人の減、400mL献血が1,400人の増、成分献血が271人の減となりまして、全体では671人の減となり、前年比99.8%となります。献血目標人数の合計の1つ右の列を見ていただきますと、30年度計画案の献血目標単位は合計で998,900単位、前年度と比べまして9,420単位の減となっております。その右の列の血液量では30年度の合計は111,532L、こちらは前年度と比べまして506Lの増となっております。

この献血目標は、30年度に必要となる血液の需要見込みを基に算定されておりますが、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績と、国が算出した30年度の原料血漿の確保目標量、さらに、血液製剤の期限切れや検査不合格等も考慮した上での数量となっております。なお、平成30年度の愛知県における原料血漿確保目標量は、表の一番右下でございますが58,438Lとなっております。

少しお戻りいただきまして、資料の25ページをお開き願います。こちらには平成30年度の市町村別の献血目標を示してあります。各市町村の200mL献血と400mL献血の目標は、各市町村別の過去3年間の移動採血車の配車実績から算出してあります。各市町村別の配車実績につきましては、資料別冊となっております参考資料の9ページ、10ページに示してありますので、参考にしてください。市町村には、移動採血車による献血を確保するため、血液センターの受入計画のもと、

献血会場の確保等の協力をお願いしております。なお、成分献血については、移動採血車ではなく、血液センター及び献血ルームで採血を行います。

戻りまして、資料の21ページの中段を御覧ください。第4の献血目標量を確保するために必要な措置でございます。ここでは、献血を推進するための取組について示してあります。輸血用血液を安定的に確保するためには、献血を支えていただいている地域や職域の団体を始め、多くの献血者の方々に引き続き協力を呼びかけること、そして、将来にわたって献血への協力が途絶えることがないように、若年層を中心とした各年代の皆様との理解と協力が必要であります。

まず、重点的な取組みのうち、(1)若年層、幼少期の普及啓発では、従来どおり高校生、新成人等を対象としたリーフレットを作成して献血への理解を呼びかけます。また、大学生で構成されます学生献血連盟等のボランティアの方々とも連携を深めて献血運動を推進していきます。また、平成30年度も引き続き、児童期における献血教育の推進を図るため、小学生の親子を対象とした親子血液教室を開催します。一番下(3)の複数回献血の推進におきましては、先程説明のあったとおり1年間に1回の献血者が約7割を占めることから、特に400mL献血の複数回献血者の層を広げるため、キャンペーンを開催して参ります。

続いて、資料の22ページを御覧ください。(4)の献血推進キャンペーン等の実施では、7月の「愛の血液助け合い運動」月間を始めとした各種献血キャンペーンを協力団体の後援のもとに実施して参ります。2の献血運動推進大会の開催につきましては、例年どおり7月に愛知県の献血運動推進大会を開催いたしまして、知事感謝状等の功労者表彰を行って参ります。なお、資料の38ページから39ページにかけて、献血推進のための方策案について具体的にお示ししてあります。資料のカッコ内の太字で書かれた団体が実施主体となって各種事業を展開して参ります。

戻りまして、資料の22ページ、第5でございます、献血の推進に際し、特に配慮すべき事項についてです。今後とも、1及び2のとおり県民に正しい知識や献血の必要性を普及啓発して参ります。また、資料の23ページ中段、9 200mL全血献血の在り方についてのとおりに、将来の献血基盤の確保のため、引き続き若年層に献血の周知啓発を行うほか、国の計画案に準じて、特に高校生の初回献血時は200mL献血を推進することなどにより、献血の経験をしてもらえよう取り組んで参ります。

次に、第6その他献血の推進に関する重要事項等について説明いたします。同じく、資料の23ページを御覧ください。2の血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応では、血液センターにおける在庫水準を常時把握する体制を整え、血液製剤の安定供給に支障をきたす危険性が勘案される事態に対して、早急に対策を講じるとともに、必要に応じて献血推進対策本部会議を開催するなど血液確保を図って参ります。

以上、説明致しましたもの以外の事項としまして、広報につきましては、愛知県のホームページ、県提供の番組や広報誌を活用することはもとより、機会があるごとに、マスコミの協力もいただきまして、県民へのPRを行ってまいりますので、引き続き、関係機関の方々の御協力を賜りますようお願い申し上げます。以上で説明を終わります。

議長・松本局長

ただ今の説明にありましたとおり30年度計画における献血の目標量、目標人数が前年度計画から変わっております。その設定につきまして、愛知県赤十字血液センターの大西委員に御説明をお願いしたいと思います。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

献血の目標量については、平成30年度の需要を推測して、それに基づいて計画が立てられています。これまで、需要については年々減少傾向が続いておりましたが、今後5年間あるいは10年間は横ばいから微減と予想しております。そうしたことから30年度は21ページの表にございますように前年度と比べると671人減とほぼ横ばいの献血目標人数を考えております。赤血球におきましても、400mL献血で341人減、成分におきましても血漿と血小板を合わせて144人減ですがほぼ横ばいと考えていただいても良いかと思っております。それから、血漿の採取量につきましては、厚労省から全体の見込みということで分配されますので、それに応じた計画を立てております。先ほど細かい説明がありましたので、特に追加することはありませんが、平成30年度も教育現場での献血セミナー、献血協力企業の拡大、あるいは若年層に向けての啓発活動をさらに促進し、そしてメディアとの連携も図りながら血液事業を進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

議長・松本局長

はい、ありがとうございました。それでは、ただいま説明のございました平成30年度愛知県献血推進計画につきまして、御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

ライオンズクラブ国際協会334-A地区・片桐委員

ライオンズクラブの片桐と申します。ライオンズクラブは赤十字さんの指導を頂きまして、献血活動を一生懸命やっています。特に若年層に対してやってほしいということで、色々やっていますが、高校生ですので400mLは取れない子供が多いということですよ。若干は200mLもOKということですが、それだけでは、若年層に対してのアピール度が弱いような気がしますので、何かいい方法を考えて頂くとありがたいと思っております。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

御意見ありがとうございます。若年層につきましては、やはり教育あるいは啓発、それ以上のことはなかなか難しいかと思っております。特に、私が個人的に考えておりますことは、高校生ではなくて小学生の時から、そういった講義を取り入れて、柔軟な心の中にボランティア精神を根づけて、それが高校生になってもう一度セミナーを聞いた時に、実際できるからやってやろうと、そういったことがうまくできないかなと考えております。もう一つは、高校に配車しての採血とい

うのは教育現場では必ずしもどこでもできるわけではありませんので、献血セミナーを通じて、献血ルームに個人的に来て頂くという取り組みを行っておりまして、栄、名古屋駅周辺には、高校生も学校帰りや週末に来て頂いています。今後ともよろしくお願ひします。

議長・松本局長

その他、よろしいでしょうか。

日本労働組合総連合会愛知県連合会・石黒局長

連合愛知の石黒ですが、献血に関する普及啓発及び広報活動の実施の中の(1)若年層、幼少期への普及啓発ということで、幼少期というのが今年度から入ったかと思いますが、ただ入っただけで中身的に見ると、実際、幼稚園とか保育園の方々への啓発が何も無く、変わってないような気がします。例えば、幼稚園、保育園に通っている子供達のお父さん、お母さん本当に若くて元気いっぱいですから、献血を呼びかけることも必要かと思いますが、項目だけ見出しがあるだけで中身が無いのかなと思ってしまいましたがいかがでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

これまでの若年層という言い方からから幼少期へと変わったわけですが、輸血ということが分かる年齢全てを対象とすべきだと思いますので、分かりやすい広報、例えば献血で助かった人の物語とか、そういったことを中心にできたらどうかと考えております。ありがとうございました。

日本労働組合総連合会愛知県連合会・石黒局長

せっかくキャラクターがありますので、是非お願いします。親しみを持ってもらうためには、子供達にも触れさせて、それが親にも影響してくるかだと思いますので、よろしくお願ひします。

医薬安全課・榊原課長

すいません、事務局から説明させていただきます。ただ今、御指摘頂きました計画でいきますと第4(1)若年層、幼少期への普及啓発という題名で、幼少期という言葉が新たに加わって確かにその通りでございます。実は、国の計画が案の段階で示されておりまして、そちらに言葉を合わせたというのが実態でございます。ただし、国の計画の内容を確認したところ、幼少期については、従前から愛知県で行われていた親子血液教室、先ほどから何度も出てきておりますが、そういった血液教室を実施していくんだという説明でございましたので、愛知県としては、今のところ事業としては過去から行って、言葉を明確化したという形で捉えております。ただし、御意見をいただいた幼少期と言いますか、さらに若い世代への教育も必要かと考えておりますので、また、御協力をよろしくお願ひします。

議長・松本局長

それでは、本日の会議は年1回のせっかくの機会ですので、それぞれの立場から幅広く御意見をいただきたいと考えておりますので、申し訳ございませんが、私の方から順次指名させていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、まず、県民の代表でもあります愛知県議会の山本委員いかがでしょうか。血液事業の現状についてお感じになられたことなど何でも結構ですので、よろしくお願いします。

愛知県議会・山本委員

愛知県議会健康福祉委員長の山本浩史でございます。献血の推進に特効薬というのは、なかなか無いわけで、様々な事業を積み重ねてこられて、これまでしっかりと血液を確保していただいているわけでありまして、本当に感謝いたすところでありまして。先ほど、若年層の話もございましたが、受入施設別の献血者数を見ますと、献血ルームが57.5%で、移動採血車が36.8%と、これが大きな2本の柱。献血ルームに関しては、愛知はタワーズとゲートタワーがありまして、若者にも本当に親しみのある施設に献血ルームがありますので、是非こういった施設をPRしていただきながら、特に若年層はSNSですね、こういったところから発信してもらい、特に発信力のある人から発信してもらいというのも一つ大切なことだと思います。それと、献血ルームというのは駅にありますと、例えば少し空き時間があるとか、そういう時間に献血に行かれるというケースがあると思いますが、私が気になったのは、その場合の待ち時間というのはどのくらいなのだろうか、要するにすぐにやってもらえれば行くけれども、待っていると時間がなくなってしまいうというケースがあるのではないかという気がしますが、その辺りの待ち時間のデータがありましたらお願いしたいと思います。

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

血液センターの大西と申します。発言をさせていただきます。ただ今の質問で待ち時間ということですが、これは献血ルームによってそれぞれ違いがございます。ただ、今お話がございました名古屋駅前の二つの献血ルームについてですが、こちらの方は、当初は一つで皆様方の受入をさせていただいておりましたが、非常に好評でございまして、たくさんの方においでいただきまして、土曜日、日曜日になりますと長い時で1時間半ぐらい待ち時間が発生しておりました。さらに、採血に要する時間は、成分献血ですと約1時間かかります。したがって、成分献血を御希望いただく方が日曜日にお見えになりますと、3時間ぐらい献血だけに要するということになります。それを緩和するために、もう一つ隣のビルにゲートタワー26をオープンさせました。それによりまして今ではかなり緩和できております。ただし、それでも、日曜日ですとピーク時は40分から50分の待ち時間が出ております。平日については、ほとんど待ち時間なく献血を御協力頂けるようになっております。ただし、献血は、現在色々な検査や問診に時間を要します。さ

らに、採血後の休憩も十分に取っていただくということで、通常の400mLの献血でも全て終了するまでに40分から50分ぐらいお時間を頂いております。成分献血ですと1時間半ぐらいお時間を頂きます。これが結局、献血者確保に一番大きなネックとなっているのが現状でございます。

愛知県議会・山本委員

ありがとうございます。せっかくですので、是非とも対策をこれからも進めて頂きたいと思えます。それともう一つの柱であります移動採血ですけども、これの大きな柱が職域ということで本当にありがたいお話だと思います。57.8%を占めておりますので、引き続き取り組んで頂ければありがたいことだと思います。もう一方で街頭の方も35.7%を占めており、もう一つの大きな柱ですので、こちらの方もできるだけ多くの人が集まるような、そんな工夫をこれからもしていただきたいと思います。

もう一点お伺いします。市町村別の献血者数の達成率の資料がございました。この中で、いくつかの市町村で、12月現在で既に100%を超えている市町村が複数あります。これは、こういった特徴があるというふうに分析をされているのかお伺いしたいと思います。

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

既に12月末で達成しているところを見てみますと、やはり移動採血バスのお邪魔している回数が多いところ、ですから、受け入れていただけます事業所、団体があったり、あるいは大きなショッピングモールがあり、そのショッピングモールで土曜日、日曜日に好意的に受け入れて頂いております。そういったお店が所在する地域については、どうしても確実に採血できる場所を選んで、移動採血バスを配車しているため、そういったショッピングモールがあります市町村は達成率も非常に高くなってきます。今、この資料を見ておりますと非常に早い段階で達成できておところは、そういった要因が大きいと思っております。

愛知県議会・山本委員

いくつか疑問点がありましたけれども、丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。これからは若年層に関しては、全体に占める人口の割合も減っておりまして、さらに、献血率も減っているということで、二重に減少していると捉えることができますので、是非とも色々なお知恵を出し合っていていただいて、これからも推進して頂きたいと思えます。ありがとうございます。

議長・松本局長

貴重な御意見ありがとうございました。それでは、次にライオンズクラブの片桐委員、先ほど御質問をいただきましたが、御意見があればお願いします。

ライオンズクラブ国際協会334-A地区・片桐委員

ライオンズクラブの片桐と申します。ライオンズクラブは、7月に始まりまして来年の6月に終わる組織ですので、昨年の7月から12月までの献血者数を御紹介したいと思います。200mLが270名、400mLが6,227名ということで、ライオンズクラブは愛知県中にありますが、献血をやらないクラブがわずか20クラブあるかないかぐらいで、ほとんどのところが献血の活動をしています。非常に成果を上げていますと、私も自負しています。ライオンズクラブは保健所さん、赤十字さんの献血者を応援して、また、粗品を出ささせていただき、事前の告知をやらせていただいて、リピーターが非常に多いということを特にお知らせしまして報告に代えたいと思います。よろしくお願ひします。

議長・松本局長

いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。それでは、続きまして、日本労働組合の石黒様、御意見がございましたら、お願ひいたします。

日本労働組合総連合会愛知県連合会・石黒局長

いつもありがとうございます。連合愛知の取組としても、毎月、機関会議がありますので、そちらの方で、例えば頂くポスターやリーフレットを各組合・構成組織にお配りして、周知徹底をさせていただきたいと思ひます。続けて行わせていただきたいと思ひております。あと色々な行事等もありますので、そんなところにも色々と宣伝をしながら献血者数を増やしていく取組をますます行っていかなければならないと思ひているところですので、個人的な意見になるかも知れませんが、私も20代の息子2人いますが、献血と一緒にいこうといつても、なかなか行かないというのがあるので、本当に若年層の献血の推進というのは大変に必要なことであると思ひております。今後ともこの活動を継続的に続けていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

議長・松本局長

ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。続きまして、企業側の立場からの意見としまして愛知県商工会議所連合会の榊原委員お願ひします。

愛知県商工会議所連合会・榊原委員

愛知県商工会議所連合会の榊原と申します。よろしくお願ひします。先ほど、御説明いただきましたが、昨年の県内の献血者数ほぼ前年と同様ということですが、やはり20歳代から40歳代、特に30歳代の方が減少していることとございました。30歳代といひますと社会に出てから10年ぐらひ経っているという働き盛りの年代とございまして、私ども商工会議所でも毎年、献血活動をやっておりますが、ほとんどが50歳代のものでございまして、この結果を見させて頂いて職場の中でも若い世代に一層PRしていく必要があると思ひました次第です。

昨年のこの会議でも申し上げましたが、タワーズの献血ルームは非常に素晴らしい施設でして、名古屋駅という立地的にも非常に恵まれた場所にありますので、こうした施設のPRも必要だと思っております。ただ、先ほど愛知県議会の山本委員長がおっしゃいましたが、待ち時間が長いというのが現状であるようでして、昨年4月にはゲートタワーにも献血スペースが増設されるなど、色々御尽力頂いておりますが、これも素人考えで恐縮ですが、これは事前の予約ができるようですが、当日、予約無しで行くとやはり1時間ぐらい待たされるということで、申込してからそこで待っていなくても、また時間が来たら、再度献血ルームに来ればよいようにできたらいいのではないかと考えております。

それから、先ほど、大西所長からのお話にありましたが、やはり小さい頃から献血に触れあう機会というのは非常に大切だと思いますので、愛知県におかれましては、親子血液教室を毎年開かれておりますので、こうした活動も継続していただきたいと思っております。

私ども商工会議所としましては、献血活動の必要性及び趣旨を広く愛知県内の商工会議所にPRしていきたいと思っておりますので、何か協力させていただくことがあればおっしゃっていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

議長・松本局長

ありがとうございます。今の御質問の中で、当日予約のようなかたちのことはできるのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

献血ルームで一部、予約を受け入れております。そうしますと、見込みで何時頃献血ができるということが分かります。先ほど、お話をいただいたように無駄な時間を少しは解消できるかと思っておりますので、今後、この予約献血を一つの柱として、今後とも進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

議長・松本局長

ありがとうございます。それでは、続きまして、多くの企業の方が加盟しておられます健康保険組合連合会愛知連合会の風村様お願いいたします。

健康保険組合連合会愛知連合会・風村事務長

愛知連合会の風村でございます。今日は色々とお説明ありがとうございます。御存知の方もいると思いますが、愛知県の中で93健康保険組合がございます。我々、愛知連合会が窓口的なことをやらせていただきまして、先ほど御紹介のありましたポスターやリーフレットを配らせて頂いたりしております。説明の中でも、若年層の方が少ないということもありましたので、そういったことも含めまして93健保宛での社内報を配る時に一緒に同封をしたり、全健保宛でのメール発信

だとか、そういったところで少しでも数字が上がるように、協力できるところはやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議長・松本局長

ありがとうございました。続きまして、女性の立場を代表致しまして、愛知県地域婦人団体連絡協議会の細谷委員お願いいたします。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・細谷委員

私は、愛知県地域婦人団体連絡協議会の副会長の細谷と申します。本日、初めて出席させていただきました。ありがとうございました。献血は身近なボランティアと伺っておりますが、多くの方々の御支援によりこのように取り組まれていることに改めて感謝いたしております。私たちの住む清須市では、市役所の担当部署が中心となって献血の啓発に取り組まれています。市内の事業者や学校での献血、イベントなどの献血などにも、血液センターの方々と一緒になってPRされている姿を拝見しております。特に印象的なのは、毎年10月に市を代表する祭りの一つであります清洲城信長まつりの時代行列が行われる当日に、献血車に来て頂き市民や多くの来場者に御協力をお願いして成果が上がっていると伺っています。協力者にはお楽しみくじなどでお祭りを盛り上げていました。当日は、骨髄バンクドナー登録などの啓発も併せて行われていたようです。また、若い方への取組として、学校授業として取り組んでいただいているトヨタ自動車大学校や愛知医療学院短期大学の学園祭などで御協力頂いていると伺っています。私ども女性の会といたしまして、成人式のパンフレット啓発の取組を始め、身近な方々へPRして参りたいと思います。現代はIT社会と言われますが、私たちのコミュニケーションの基本は口コミです。女性の会のネットワークを活用して、推進の一翼を担いたいと考えております。以上でございます。ありがとうございます。

議長・松本局長

ありがとうございました。同じく、女性の立場を代表しまして、名古屋市地域女性団体連絡協議会の榎澤委員お願いいたします。

名古屋市地域女性団体連絡協議会・榎澤委員

名古屋市地域女性団体連絡協議会の榎澤と申します。よろしくお願いいたします。私どもの団体は本当に高齢化しております。昨年も申し上げたと思いますが、実際に献血できる年齢層はごくわずかだと思っておりますので、その分、色々な世話焼きおばさんの活動をしております。16行政区ありますが、地域で会合やら講習会とかで、色々行っておりますので、そういう場でPRをしまして、自分の子供とか孫とかに是非というお話は、地域差はありますがさせていただいております。

そして、私ども昨年10月に瀬戸市にあります血液センターに各16区、2、3名ずつバス1台で見学に行かせていただきました。そこで子供さん向けだとはおっしゃって見えましたが、小児がんのビデオを見させていただいて、そして施設をそれぞれ見学させていただき、血液製剤を作っているところでは、クイズ形式で一緒になって勉強してまいりました。それを是非、子供達に伝達しようねということで、帰りのバスでは話をさせていただいております。そういうところで色々PRをさせていただいておりますが、実際には年齢制限もありまして、自分たちは献血ができませんので、大変に申し訳ないと思っております。そして、私事ですが、最近、身内が3本輸血を受けまして、命を永らえております。非常に助かっておりますので、ありがとうございます。お礼申し上げたいと思います。以上でございます。

議長・松本局長

ありがとうございます。続きまして、学校における献血の知識の普及等につきまして、愛知県公立高等学校校長会の竹下委員にお願いしたいのですが、特に私から個人的に伺いたいのは、卒業献血キャンペーンリーフレットを高校3年生全員に配布したという報告がありましたが、私が心配しているのは、学校は色々なリーフレットが来るものですから、本当に個別にしっかり届いて、しっかり読んでいるのだろうかという、そういう不安があるのですが、その辺りを含めて教えていただければと思います。

愛知県公立高等学校校長会・竹下委員

すいません。その辺について、しっかりリサーチをしておりませんので、ただ、私も今年初めてこの会議に出席させていただくということで、先生方等にも聞いてみたわけですが、実際資料が届いていることは確認しました。卒業生のものについては、卒業をする前に配布することになると思います。高校1年生対象の者については、私確認していないのですが、先ほど大西所長さんがおっしゃいましたけれども、高校生に対する学校の役割は、主としては啓発であろうと思っております。赤十字さんが分析をされた2011年のレポートを読ませていただいて、高校献血減少の要因分析をされております。読ませていただいて現状は変わっていないだろうと思っておりますので、そういう意味で、やれるところは、実際に学校で献血をやっているところが現実にあるわけですが、高校として、学校での献血を推進するというよりは献血の大切さであり、意義であり、そうしたものをきっちりと啓発していくということだろうと思っております。そうした中で、学校では保健の授業の中で献血のことに実際に触れるわけですが、そうした時にいただいているパンフレットを使うということについて、また、教育委員会とも連携して話をしていくのかなと、要は効果的にそれを啓発資料として使う、ある時期に全体で配って献血について読んでおけよというだけではなく、授業の中にその資料を活用することは一つ必要かなと思われました。私からは以上です。

議長・松本局長

ありがとうございました。同じく高校生の献血推進につきまして、愛知県私学協会の粥川委員、お願いいたします。

愛知県私学協会・粥川委員

私学協会の粥川と申します。私も授業にたまに行っておりまして、1月の段階で献血について2クラスで簡単なアンケートを行いました。もちろん、献血について何も情報を与えないまま、献血したことがあるかとか、機会があればしたいかとか、こういう簡単なアンケートですが、高校2年生ということもありまして、一人も献血をしておりませんでした。献血をしたことがないという生徒の中で、機会があればしたいと思うのはと聞くと、4割がしたいと回答があり、僕は意外と高いのにびっくりしました。子供達の中に、そういう純粋な思いが非常に多いということに感動しましたが、その後、成分献血とか、200mL、400mLの献血について、何歳からかとか色々な条件を聞くとほとんど知りませんでした。最後に、日本赤十字社のホームページを調べていましたら、小林麻耶さんの命の授業という映像が流れておりまして、それを生徒に見せました。そしたら、本当に涙ぐみながら見ている生徒もたくさんおりまして、それを見終わった後に、もう一度アンケートをし、献血をしたいですかと聞きましたら、特に献血をしたいと思った子が94%と、ほとんどがそういう情報を知るとやはり自分の使命というか、自分にも何かできることがあるのではないかという、そういう思いを持っている子供達が非常に多いということで、僕自身も勇気づけられました。是非、啓発運動も、そういうところにも触れるような啓発運動が高校生あたりのところでも必要では無いか、そうすれば、いずれ芽が出る時が来るのではないかなあと期待したいと思います。

議長・松本局長

貴重な御意見ありがとうございました。御指摘のとおりやはり紙の媒体より、こういう映像の方がインパクトがあって、例えば先ほどの御意見でもありましたがSNSとか、you tubeとかですね、そういうような媒体の活用も必要だなと感じました。ありがとうございました。時間の関係で、申し訳ありませんが指名を飛ばさせていただきますが、後ほど時間があればお願いしたいと思いますが、次に、今後の献血を支える若い世代への献血啓発活動につきまして、愛知県学生献血連盟の松本委員お願いいたします。

愛知県学生献血連盟・松本委員

愛知県学生献血連盟委員長の松本悠里と申します。愛知県学生献血連盟についてお話をさせていただきます。

愛知県学生献血連盟は、愛知県内の13大学、約300名が加盟し若年層への献血の推進、若年層の献血者数の増加を目的に愛知県赤十字血液センターの皆様の御協力のもと、活動しております。

毎年、夏には名古屋港水族館で、冬、春には栄広場で献血キャンペーンを行っております。今年度は週1回の活動日に献血について学んでもらうためのスライドを実施したり、加盟大学を訪問して、献血セミナーを実施したりして、加盟する学生の知識の普及に努めました。

また、昨年度からは、子供達に献血について知ってもらうきっかけ作りとして、夏に名古屋港水族館で開催するキャンペーンで、ゲームコーナーを設置し、景品と一緒に献血について分かりやすくまとめた絵本のような冊子を配布しています。今後、これに加えて新たな取組を実施したいと考えております。

来年度は、献血連盟に加盟していない学生に向けて広く情報の普及をして行きたいと考えております。現在、SNSが情報発信のツールとして活用されており、私どももSNSを活用して、情報発信とともに、献血の重要性を伝えていきたいと考えております。学生献血連盟は、安定的な血液の確保に貢献できるよう活動して参りますので、今後とも暖かく見守っていただきますようお願いいたします。以上でございます。

議長・松本局長

いつもありがとうございます。また、今後とも是非よろしく願いいたします。それでは、続きまして、また、少し飛びまして、市町村には県と同様に献血推進を図ることが求められております。市長会を代表致しまして、豊橋市の夏目委員、御意見をよろしく願います。

愛知県市長会・夏目委員

市長会を代表致しまして豊橋市の夏目でございます。名鉄の人身事故がありまして、遅れて申し訳ございません。市長会ということで、献血に貢献できることは、例えば職域としての私たちが献血に貢献すること、もう一つはやはり市町村の役割としては、それぞれの普及啓発のところが、大変大きいと思っております。それぞれ、リーフレットですとか、ポスターについては、送っていただいたものを学校等に配布をさせていただいておりますけれども、私一つ思いますのは、自治体の方はそれぞれ出前講座ということで私たちの場合は福祉であったり、成年後見であったり、避難所運営のやり方であったり、それぞれの地域、地域に出て行ってお話をしたりする機会があったりするのですが、献血の場合は、資料38ページにあります献血セミナーの開催といったものが、この出前講座に変わるようなものでしょうか。ちょっと質問になってしまうのですが、

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

はい、セミナーの方は、現状では高等学校、中学校が中心となっておりますが、どこへでも出向きまして、そちらの方でお話をさせていただきます。御依頼がございましたら、すぐにお邪魔できるような体制をとっておりますので、また、よろしく願いいたします。

愛知県市長会・夏目委員

どうもありがとうございます。

議長・松本局長

ありがとうございました。続きまして、同じく町村会を代表いたしまして、幸田町の菅沼委員
お願いいたします。

愛知県町村会・菅沼委員

それでは、質問を一点ほどと、感想を一点お願いしたいと思います。血液について需要と供給
のバランスを取っていただいていると思うのですが、献血をされた後の消費期限がどのぐ
らいであるのか、それと献血された血液というのは、ほぼほぼ廃棄されずにほとんど使われてお
るかどうかということをお聞きしたいと思います。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

血液製剤の有効期間は、一番短いのは血小板で採血から4日間、赤血球については採血から21
日間、そして血漿については6か月保存して、1年間と決められております。基準としては感染
症を含めた安全性及び有効性、その2点で決められております。特に、日本では、赤血球につい
ては海外よりも短めに設定されています。これは、エルシニア感染が以前ありまして、その時に
21日に短縮されました。もう一つ、廃棄率ということに関してですが、以前に比べて非常に少な
くなりました。これは、全国を7ブロックに分け、不足した場合は他ブロックから調達するとい
う日本全体での供給体制が確立いたしまして、赤血球製剤ですと廃棄されるのが愛知県では0.1%
ぐらいになっております。血小板は有効期間が短いので、廃棄率は少し多いですが、無駄なく使
えるように鋭意努力しております。

愛知県町村会・菅沼委員

ありがとうございます。それでは、一つ感想というのか、卒業献血キャンペーンのパンフレッ
トを見させていただいて、その裏面に輸血を受ける人と、献血をする人とあるのですが、輸血を
受ける人が50代以上というのはよく分かるのですが、先ほどの小林麻耶さんのお話ではないです
けれども、実際に助かった人、ありがたいと思われた人の体験談的なものを、こういったパンフ
レットないしキャンペーンであるだとか、色々なイベントでPRできたら若い世代の心に響くもの
になるのではないかなというようなことを一つ思いました。以上でございます。

議長・松本局長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、献血の推進には、報道機関も大変大きな役割を果たしていただいております。そういったお立場から、中日新聞社の池田委員お願いいたします。

中日新聞社・池田委員

はい、中日新聞社の池田です。よろしく申し上げます。一つ質問をさせていただきたいのですが、献血に来られた方に、特に初めて来られた方にどうかたちで献血のことを知ったかというか、どうして献血しようと思ったかとか、そういったアンケートみたいなことというのは何かされているのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

はい、こちらのほうは、毎年お見えになった方、初回者に限ってではないのですが、お見えになった方に対して、一定期間、献血ルームにおいてアンケート調査を行っております。その中には、きっかけとか、何で献血ルームを知ったかとか、そういった質問がございますが、そういったことはアンケートで取っております。

中日新聞社・池田委員

その結果、どこで知ったという方が多いのでしょうか。例えば、友達に勧められたとか、たまたま街で見かけたとか。

愛知県赤十字血液センター・大西献血推進一副部長

やはり、献血ルームでアンケートを取っている関係もありまして、どこの献血ルームでも、私どもの職員が外へ出て呼びかけをしておりますが、そういった呼びかけが協力するきっかけになったという方が、一番多いと思います。

中日新聞社・池田委員

ありがとうございます。あと、もう一つお聞きしたいのは、例えば50代、60代の方で人生において全く一度も献血をしたことがない方と、1回でもしたことがある方というのは、ざっくりで構いませんので、どのぐらいの比率かということをご把握してらっしゃいますか。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

年代ごとの献血率というのは、大雑把に言うと約5%です。95%の方は献血されたことがないということになります。

中日新聞社・池田委員

そんなものなのですね。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

逆に言うと、5%もの方に献血して頂いているということも言えます。

中日新聞社・池田委員

分かりました。先ほどの話で年間に1回だけする方が7割ということで、この方々にもう1回をしていただこうと、そこを進めていくということに力を入れるというのは、確かに有効だと思うのですが、一方で残る95%の人たちが、まず最初の1回がないと、2回目も無いわけですから、そこを裾野を広げると言いましょうか、そういったことはやはり必要だと思います。

まさに、さきほどいろいろとお話が出ておりますように、広報、PR、どうやって特に若年層に普及していくのかということだと思っておりますが、やはり、これもさきほどいろいろお話が出てます、色々な形で目に触れる機会を増やすということは大事だと思うのですが、いわゆるバラマキ型みたいなかたちでは、なかなかそこでは限界があるような気がしますし、街頭でという方も結構いらっしゃるかと思いますが、私は正直印象としては、よく街角で献血を呼びかけているのは見かけますけれども、何となくいつもいつも足りないと言っているような印象があり、言い方が悪いですがいつもいつも閉店セールやっているお店みたいな、何となく若い方はそういう、つまり、いつもいつも安いと言っていて、結局それが安くなってないんじゃないかみたいな印象をもたれてしまっているのではないかと気もしますし、もちろん、保存があまり効かないということもあって、常に常に必要だと言うことは重々分かる人は分かるのですが、1回もやったことがない人もたくさんいるわけですから、そういうことも知識が無いかもしれないですし、要するに何が言いたいかということ、広報のやり方の工夫というのがなかなか従来型から抜け切っていないのではないかなという印象を強く持ちます。先ほどもおっしゃっていたように、心に響くといいましょうか、キャッチーな何かといいましょうか、何となく右の耳に入って左から抜けていくみたいなことではないやり方というのをもう少し考えていくべきだろうなというふうに思います。もしそういうものがありましたら、きっと我々もさらに報道できるのではないかと、今も献血のこういうキャンペーンをやりましたというのを我々も報道させていただいておりますけれども、定期的なものだけでなく、例えば他のメディアさんが飛びつくようなといいましょうか、そういう形でどんどん拡散していくというような効果にも繋がっていくのではないかなというふうに皆さんの話を聞いていて感じました。

議長・松本局長

ありがとうございました。

愛知県赤十字血液センター・大西委員

貴重な御意見ありがとうございました。若年層というのを強調する一つの意味は、現在献血されている人の多くは40代、50代で、これは過去の高校献血が非常に盛んだった頃に献血して頂いた方が引き続きやっていたというところがバックグラウンドにあります。そういった意味でもやはり最初の一步を若いうちに1回経験していただく、それが現実的に一番大切だと思っております。

議長・松本局長

はい、ありがとうございました。時間が、そろそろ無くなってきてしまったのですが、せっかくですので、行政で広報に携わってみえます広報広聴課の伊藤主幹、1分以内でお願いします。

政策企画局広報広聴課・伊藤主幹

代理で出席しております広報広聴課でございます。県民の皆様へ県政情報を広くお伝えするために、日々広報活動を行っているところですが、献血につきましても、是非多く取り上げて色々な媒体でお届けをしたいなと感じております。それと、我々、自前の広報も一生懸命やりますが、中日新聞さんがお見えになります、何と言っても報道機関に取り上げていただきますと反響がかなり大きいものですから取り上げていただけるような、今もお話がありましたメディアが飛びついていただけるような、そういう公表、記者発表などを担当課と連携してやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

議長・松本局長

はい、ありがとうございました。それから、先ほど飛びました愛知県教育委員会の伊與田主任主査、1分以内でお願いします。

愛知県教育委員会保健体育スポーツ課・伊與田主任主査

本日、代理で出席させていただきました伊與田でございます。高校の授業について若干補足させていただきます。高校におきましては、保健の授業において、献血制度に加えて日本赤十字社の諸活動についても指導内容にあることから、授業の中で取り扱っております。すぐに献血することはないにせよ、将来に向けて高校生の意識を高めるきっかけとなるような授業を今後も心がけていきたいと思っております。なお、授業以外に関しましても、リーフレットやポスター等の配布につきましては、関係機関と連携を図りながら、先ほどもありましたように活用する方法も含めて、今後も協力して進めて参りたいと思っております。以上です。

○ 閉会

議長・松本局長

はい。ありがとうございました。ちょうど時間になりましたが、その他の方で特に御意見がございましたら、お願いします。よろしいでしょうか。それでは、本日いただいた御意見を踏まえまして、事務局においては、平成30年度の愛知県献血推進計画の作成をよろしく願いいたします。それでは、最後に県を代表いたしまして私の方から一言お礼を申し上げます。本日は、皆様には大変お忙しい中、長時間に渡りまして、貴重な意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今日頂いた意見を今後の施策にしっかり活かしていきたいと思っております。また、皆様方におかれましては、今後とも本県の血液事業につきまして、引き続き御支援をいただきますよう、重ねてお願いいたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

医薬安全課・小栗主幹

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして本日の協議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。